

「巻頭特集」若狭神宮寺とお水送り

懺悔滅罪を祈る 火と水の儀式

東大寺二月堂を建立した実忠和尚の創始とされる十一面悔過法(以下、修二会)。天平勝宝4(752)年、実忠の勸請に応じた諸神1万3700余のうち、若狭国の遠敷明神が魚を捕って遅れた。遠敷明神は遠敷川の水を閻伽水として送ると約束し、二月堂のほとりに清水を涌き出させた。修二会は別名「お水取り」とも呼ばれる春の風物詩だが、若狭神宮寺ではこれに先立ち、境内の閻伽井戸から汲んだ香水を鵜の瀬に注ぐ「お水送り」を執り行う。

全国に先駆けて建立された 神仏習合の神願寺

越前の豊かな山々と、若狭の清らかな水。福井県の魅力は、「越山若水」という言葉に集約される。わがまち小浜市には、名水百選に選ばれた鵜の瀬の水で知られる遠敷川が流れる。鵜の瀬へ香水を注ぎ、東大寺二月堂の閻伽井戸へ送るのが、若狭神宮寺の「お水送り」である。

正式には靈王山 根本神宮寺と号する若狭神宮寺。和銅7(714)年、元明天皇の勸願によって、遠敷明神の直系子孫である和朝臣赤麻呂が開創した。翌年には元明天皇の皇女である元正天皇の勸願寺となり、若狭彦神と若狭姫神を迎えて神仏両道の寺とした。開創当初の名を鈴応山・神願寺という。

神と仏を合わせ祀る神仏習合の神宮寺は、奈良時代初頭に全国で建立

され始めた。なかでも若狭神宮寺は非常に古い例といえる。延暦17(798)年には、桓武天皇の勸願によって七堂伽藍と25の僧坊が整備され、境内は4万坪に及んだという。

ところが平安末期、平重衡による南都焼き打ちの余波を受けて衰勢し、一時は荒廃に至る。後に鎌倉幕府が発した寺社興行令により復興。若狭彦神社と若狭姫神社を上社・下社として、若狭神宮寺は奥院と位置付けられた。その別当であることから根本神宮寺と号し、鎌倉幕府の七大寺七大社に格付けされたという。

良弁と実忠の師弟に見る 東大寺との関わり

若狭神宮寺は東大寺と密接な関わりをもつ。江戸時代の学者・貝原益軒の『西北紀行』には、「遠敷、上下の祠あり。山上の神宮寺、これ古の僧実忠が住せし処なり」とある。

1300年の時を超え、廃仏毀釈で失われた文化を今に伝える若狭神宮寺

過去に若狭神宮寺の境内からは、奈良平城京の軒丸瓦に酷似する古代瓦が出土した。その造営には中央政朝が関わったと考えられている。

若狭神宮寺は、幾度もの落雷焼失を経て、再建が繰り返された。現存する檜皮葺の本堂は、朝倉義景によつて天文22(1553)年に再建された。堂内には本尊の薬師如来坐像、日光・月光菩薩、十二神将立像、千手観音坐像、不動明王、多聞天が安置されている。

その右側には、那伽王比古明神ほか5柱が祀られている。参拝客が柏手を打つさまは、神宮寺ならではの光景だ。本堂と北参道の入り口にある仁王門には、注連縄が張られている。

明治維新後に神仏分離令が発されると、全国の神宮寺と同じく大きな圧力を受けた。境内の遠敷神社は、社殿を壊し、神体の遠敷彦像と遠敷姫像を差し出すよう命じられた。この時に身代わりの像を差し出して難を逃れたため、本物は収蔵庫に秘蔵されている。



火天は達陀松明を振り、七里を結界とし魔を祓う。水天は香水を散じて浄める

鎌倉時代に編纂された説話集「古事談」には、「実忠和尚八天竺(インド)ノ人ナリ」と書かれている。

実忠の師は、東大寺の初代別当・良弁僧正である。良弁の出生地については諸説あり、その1つが若狭国遠敷郡下根来白石とされる。若狭神宮寺の開祖である赤麻呂は、白石の神童といわれた子どもを大和へ連れて行き、義淵僧正に託したという。地元では、驚にさらわれたとする伝承も残る。

東大寺を始め、金勝寺(滋賀県栗東市)、石山寺(滋賀県大津市)、観音寺(京都府京田辺市)など、良弁と実忠が携わった寺院は、天皇の勸願によつて建立された。このような大伽藍をつくるには大陸の土木技術が不可欠であり、白村江の戦いの後に帰化した百済遺民による力が大きい。良弁は優れた技術集団を率いたことから、帰化人であったともいわれる。

若狭に春を告げる 「お水送り」の儀

毎年3月2日、「お水送り」は下根来八幡宮の講坊から始まる。若狭神宮寺別当によつて祈禱された赤土に御神酒を注ぎ練り、講衆の役頭2人が長床の2本の柱に「山」と「八」を牛王杖で書く。天下泰平、五穀豊穰、諸人安穩を祈願する山八神事である。場所は神宮寺堂内に移り、法華懺法が始まる。人々の罪を懺悔し、諸仏の加護と慈悲を願う法要だ。前庭で行われる弓打ち神事、奉納弓射大会では、紫の装束に身を包んだ氏子代表が、30メートルほど離れた的に向けて弓を放つ。

夕闇が迫る頃、白装束の僧がホラ貝を吹きながら入場する。堂内で始まる薬師悔過法という神仏習合の儀式では、閻伽水を香水に変じさせる。



山伏を先頭に、香水を守って鵜の瀬を目指す。大小千数百本の松明が荘厳に連なる



鵜の瀬に松明行列が到着すると、松明の火は護摩壇に移される。行会の満行と参拝者の諸願が込められた松明が突き上げられる



鵜の瀬にて、水師が送水文を奉上し、水切り神事の際に香水を淵の流れに注ぐ



国指定重要文化財である北参道の仁王門。木造金剛力士像には至徳2(1385)年の墨書がある。七堂伽藍25坊を有し、隆盛を誇った住時が偲ばれる。東門は遠敷川のほとりに面して建てていたが、今は失われてしまった

information

若狭神宮寺

小浜市神宮寺30-4 拝観料400円
TEL 0770-56-1911

お水送り 3月2日[金]

13:00の弓打ち神事から一般見学・参加が可能。
達陀行法18:30〜 / 大護摩法要19:00〜
松明行列19:30〜 / 鵜の瀬大護摩供20:00〜
送水神事20:30〜 / 立ち直会21:00

天文22(1553)年、朝倉義景によって再建された国指定重要文化財の本堂。中世末期建築として堂々たる風姿を誇る。檜皮葺、入母屋造、和様唐様天竺様の3様式折衷建造物である。太平洋戦争時、昭和20年7月末にB29の大編隊が若狭湾を空襲した。遅れてきた1機が若狭神宮寺の裏山に多数の機雷を投下したが、伽藍は被害を免れている。